令和6年度 第1回 学校運営協議会記録

令和6年4月17日(水) 9:30~11:30 場所:会議室 記録:山本

- 1 開会
- 2 委嘱状伝達
- 3 校長挨拶
 - ・地域の温かさを感じる。学校運営協議会として、他校に誇れる支援をいただいている。今後ともよろしくお願いいたします。
- 4 自己紹介(学校運営協議会委員、本校教職員)
 - ・村本 幸雄 様 (元特別支援学校長・社会福祉法人 松の郷 理事長)
 - ・池谷 修 様(相談支援事業所 サポートセンターこげら センター長)
 - ·山本 幸平 様 (原地区連合自治会 会長)
 - · <u>石原 厚 様</u> (沼津市商工会 事務局長)
 - · 芹澤 和代 様 (社会福祉法人長泉町社会福祉協議会 会長)
 - ・梶浦 博美 様 (清水町健幸づくり課 主任)
 - ・立川 秀夫 様 (沼特 PTA 会長・有限会社 八福 専務)
- 5 会長・副会長の選出

会 長:村本幸雄様

副会長:池谷 修様 決定

- 6 学校参観
- 7 協議 (司会:会長)
 - (1) 令和6年度の学校運営計画等について
 - ア 令和6年度学校経営計画等の説明 (校長)
 - ・本校は知的障害の学校であり、知的障害と他の障害を併せもった児童生徒がいる。 養護学校の義務制に伴い、静岡北特支、浜松特支、沼津特支として開校した。 知的障害教育学校として、東部地区の中心校である。学校教育法第22条の3の 規定に則った児童生徒が入学している。
 - ・知的障害教育学校の特色として、各教科を合わせた授業を行うことができる。 生活のテーマやいろいろな作業の課題を解決していくこととして、生活に役立 つ授業を行っている。小中学校のように○年生の授業ではなく、発達やできる ことによって指導の段階がある。

- ・令和6年度は小学部89人、中学部52人、高等部79人の全校220人である。 伊豆の国特支ができる前の令和2年度が381人で最大であった。一度人数は 減ったが、少し増加している。
- ・学校経営計画書より 学校教育目標 「共に育てる自立と輝き」
 - 「共に」…学校、保護者、地域、児童同士、自分自身も含めて。学校以外でも、 地域とともに、関係機関とともにということで、ここには学校運営協 議会も入ってくる。
 - 「自立」…それぞれのステージでできることを増やす。次に向かって今あること、できることを精一杯行うこと。小学部だから実行できないのではなく、それぞれの段階でできることがたくさんある。
 - 「輝き」…自分のいいところを伸ばし、他社から認められ自信をもって生きてい ける力を高めるということ。
 - 大切なこととして職員と共有している。
- ・具体的な取組では、以下のことを重点として取り組んでいきたい。
 - 「安全」…福祉避難所の指定に向けて取り組んでいく。学校内の安全は、未然防止の観点で行っていく。
 - 「専門」…自立活動の充実とキャリアパスポートの活用に力を入れる。一人ひとりが主体的に課題解決を行えるようにする。別紙の自立活動の内容を保護者とも共有していく。小学部1年、2年…と学習を積み上げていったものを、キャリアパスポートという成長のアルバムのようなものに保存していき、自分でも将来の夢を描く、これまでの成長を振り返られるようにする。
 - 「連携」…学校運営協議会の力をお借りして、地域や関係機関との協働を行っていく。
 - ・これらを進めていくためのチームとして、アサーティブな関わり合いが持てる 学校として、沼特マインド(沼特が一番という思い、想像力を大事にしましょ う、持ちつ持たれつやっていきましょう、受容から始まるコミュニケーション を大切にしましょう)を教職員集団の合言葉として進めていく。さらに、つな がりを基盤とした学校経営をしていく。

イ 質疑応答

- (委員)キャリアパスポートの具体的な物があれば教えていただきたい。
- (部主事) 小学部では、好きなことや頑張りたいこと、できるようになったこと、楽しかったことを記入している。中学部では、将来の夢を書く欄を設けている。将来の夢に向けて今何ができるか教師と一緒に考えている。高等部は、今年度から新しい書式になる。外部から入学してき

た生徒も同じように中学校まで積み重ねてきたものに重ねていく。 夢について記入するところがあり、3年間かけて将来のビジョンを考 えていく。今の自分はどうなのか、こんなところを成長させていきた いということを記入。目標を立てたりや振り返りをしたりすることを 繰り返すことで、卒業後も活用できるようになると良い。

- (委員)被災したところを見ると、トイレが一番問題となっていた。断水になったとき、どう対応していくのか。200人くらいの想定だと思うが、 備蓄はどのくらいあるのか。
- (校長) 具体的なところはまだ策定中である。
- (委員)学校の中で考えているだけでは気付かないこと、いろいろな立場から の意見を出していただけると良い。

ウ 令和6年度学校経営計画の承認

→ 承認

(2) 学校運営協議会の方向性と具体的な活動について

- ア 令和6年度の学習活動等の支援について
 - (7) 各学部の取組と地域との連携を希望すること (別紙) (各学部主事)
- (小学部) 昨年度の取組を継続していくが、反省を生かして、対象学年や活動内容の見直しを行っていく。校内宿泊学習や公共交通機関を使った学習が増える。地域に出掛けていく機会が多くなるので、温かく見守っていただきたい。
- (中学部) 園芸班は、花植え交流をしながら花壇作りで地域に貢献していきたい。地域交流は、今年度婦人会が解散したということで行わない。地域の人や地域のためにできることを見つけていきたい。
- (高等部) 今までのつながりを大事にしていきたい。販売機会は、人数が減ったことにより、回数や販売方法を検討しながら行っていきたい。地域の人と一緒に学習する機会は引き続き行っていきたい。学校周辺の掃除は、ボランティア部(今年度からは総合文化部)や生徒会の活動で行っている。賞をもらい、認めていただく機会も昨年度はあった。防災学習も地域の方と一緒に行っていけるとよい。クリーンサービス班は、定期的に掃除に行けるところを増やしてきたい。
- (委員)生徒の負担にならないようにしていけるとい良い。活動を行ったから こそ、反省が出てくる。御意見等あれば伺いたい。
- (委員)地区として協力したいと思う。年間の日程やスケジュールを出してもらいたい。

- (委員)情報提供の仕方は?
- (校 長) 昨年度末に学校全体の行事の一覧はお渡ししたが、各学部のものは配布してなかった。年間で各学部の活動も入ったものがなるべく早くにお渡しできるように考えていく。
- (委員) 昨年度ハンドベルコンサートを行ったときに、ご縁があって新聞社の 取材も受けた。そこから、表彰もしてもらった。欲を言えば、保護者 や地域の方等多くの人に聴いてもらいたい。今年は新たな計画でお願 いしたい。
- (委 員) PR をすることが大事だと思う。
- (委員)計画を精選して時間的な余裕を取ってもらえるとよい。
- (委員)原地区の婦人部は解散した。東沖だけでなく、原地区の東側の自治会の持ち回りにするなど違う考え方でできるといいのでは。早めに情報があれば調整できる。
- (委員)保育園交流はいつも同じところか。障害をもった子が通ってくることがあるかもしれない。この交流が、職員にとって障害を持った子の将来の見通しをもてる機会にもなる。公立の園であれば、職員が異動するので、ここで学んだことが他の園でも広がっていくのではないか。
- (委員)長泉町では「福祉まつり」(10/20日曜日)がある。先ほどの見学で見た巾着がとても良い物だったので、制作しているものを販売することが可能か? 民生委員さんの障害者理解にもつながる。日曜日なので、販売が難しければ、製品を展示したりパネルを出したりしてPRの機会にしても。無理なくできる範囲で考えてもらえるとよい。初めて目に入る看板に興味をもってもらったり、身近に感じてもらったりする機会になると良い。
- (委員)原地区の夏祭りも土曜日にある。今年度も参加してもらいたい。
- (校 長) お誘いいただきありがたい。昨年度原地区の夏祭りに参加した際には、学校に配慮していただきありがたかった。

イ 学校・地域等における課題に向けた取組について

- (ア) 地域で災害が起きた時の避難の現状と課題について (別紙)
- (教 頭) 今年度は避難訓練の様子を見てもらうところから始めたい。10月3日 のスモーク体験は参加が可能である。

避難所としては、原東小学校が沼津市の指定になっている。そこが入りきらなくなり、ニーズがある場合には体育館が使用できるように計画はしてある。昨年度行った PTA 防災研修では、慣れたところでの避

難生活ができないかとの要望もあった。富士特は、1次避難所としての福祉避難所に昨年度指定された。沼津市と話し合いをし、情報共有していきながら沼津特支が1次避難所としての福祉避難所となれるように準備を進めていく。すぐにということは難しい。沼津市も、本校を指定するためには様々な準備が必要だし、本校が指定を受けていくためにはいろいろな準備をしていかなければならない。おそらく数年かけた取組になるのではないかと考えている。そのスタートを今年切ろうとしているところである。

- (校 長) 清水町・長泉町の福祉・教育関係に挨拶に行かせていただいた時に、 このような取組をしていることを話し、協力してもらえるように依頼 した。
- (教 頭) 指定を目指していくなかで、地域との関わりをなくしては進められ ない部分も出てくると思う。地域の御理解も得つつ、話し合いを進め ていく。進捗状況はこの場で報告し、意見をいただける機会を作って いく。
- (委員)良い方向で進んでいると思う。意見、感想、質問があればお願いします。
- 員) 3月の初めに能登に行った。その時でも、輪島市、珠洲市は2か月前 と変わっていない状態だった。障害を持っている方、お年寄りの方は 避難所に入りたくない、入れないというのが現状だった。2か月経つ と避難所が縮小されていく。障害を持っている方は行くことができな い。行政からは移動しなさいという指導が来るが、現実的には、子ど もたちだけ送ればいいというわけではなくて、それに伴って大人も行 かなければならない。学校の先生や施設の人も行かなければならな い。その時に、家族を置いていくわけにはいかない。結果的には避難 できないという状態が現状である。本校が1次避難所となった場合、 地域の方に御理解いただきながら避難できる環境を続けられるような 方向性になるとよい。行政だけだと法律上などの制約があり、あっち いけ、こっちいけになってしまうが、現実とはかけ離れてしまっている。 それが今の能登の現状であるので、それは、沼津でも当てはまる可能性が あると思う。学校に避難することもそうだけど、それぞれの地域で避 難できる体制、子どもたちがその地域で受け入れられる状況を作って いく必要がある。
- (校長)原地区の災害想定はどうなっているか。
- (委員)各自治会に任せている状況である。原地区連合自治会に災害本部を作るという仕組みがない。各自治会をまとめ、沼津市に状況判断を仰ぐだけである。実際は、福祉協議会が進めている。

- (委員)長泉町からの要請を受け、社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立ち上げる。長泉町商工会と社会福祉協議会が防災協定を結んだ。商工会のノウハウを災害時に活かすことができる。ガスボンベが欲しい、トラックが必要、食料の調達など、災害時に必要なことがあれば商工会に所属している企業の得意分野を活かして動いてくれるといった状況を作ることができる。災害が起きたときに動きやすくなる。トイレが必要となった場合も、この協定があることですぐに動くことができる。
- (委員)全国でもこのような動きがある。原地区はすぐ浸水してしまう。避難 所に行ったけれども水がない、食べ物がないという状態になる。そう いった場合、行政の動きを待っていると遅くなってしまうが、商工会 が緊急事態のときに動くことができる。その後は、行政の指示になる。
- (委員)様々な情報があるなかで、いろいろなことを学校として考えていかなければならない。実現していくにはハードルがあると思う。時間をかけて良いものを作っていってほしい。防災訓練の様子も、案内を出していただいて、都合のつく方が見に行くことができるようになると良い。東部特支に通っている医療的ケアのお子さんも沼津市内にある程度の数いるので、災害時に、沼特で医療的ケアができるというならそうしたいという方も出てくるかもしれない。考えるといろいろなパターンのことが出てくる。みんなで考えていくことができると良い。
- (副校長) 学校として、今回いただいた意見を参考にして、今後の教育活動に活 かしていく。

8 今後の学校運営協議会の予定

- ・第2回:令和6年10月30日(水)前期の評価及び後期の取組
- ・第3回:令和7年 2月 5日(水)後期の評価及び次年度の取組
- ・年度途中に参観、御意見をいただく機会を設けることがある。

9 閉会